家畜保健所における病性鑑定実施状況(令和５年度 上半期)

令和５年度上半期(R5.4.1～9.30)に当所で実施した病性鑑定件数は、330 件でした。畜種別内訳では、牛が 251 件と最も多く、ついでイノシシが 55 件（全て豚熱・アフリカ豚熱の全国的サーベイランス検査）でした（表１）。

表 1. 令和５年度上半期　病性鑑定状況　（件数）

畜種	解剖	検査	合計
牛	38	213	251
家きん	3	19	22
山羊・羊	1	1	2
イノシシ	0	55	55
合　計	42	288	330

牛の検査実績について、疾病別にみると牛伝染性リンパ腫と牛ウイルス性下痢の検査が約９割を占めていました。また、県内で牛ボツリヌス症が発生したことから、これに関連した検査についても依頼があり、外部機関での検査を実施しました（表２）。

表２. 令和５年度上半期　牛の検査実績（頭数）

疾病名＼用途	肉用牛	乳用牛	合　計
牛伝染性リンパ腫	1,241	1,089	2,330
牛ウイルス性下痢	983	994	1,977
ヨーネ病	35	48	83
牛ボツリヌス症	14	0	14
異常産調査	75	60	135
下痢・血便等診断	18	0	18
乳房炎細菌検査	0	125	125
その他	6	62	68
合　計	2,372	2,378	4,750

牛の解剖を伴う病性鑑定の結果についての内訳をみると、消化器系が 12 頭と多く、牛ボツリヌス症、牛コクシジウム症、牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症といった感染症と診断されました。

ワクチン接種や駆虫プログラムの検討や飼養環境の衛生対策の徹底が望まれます。

（三溝）
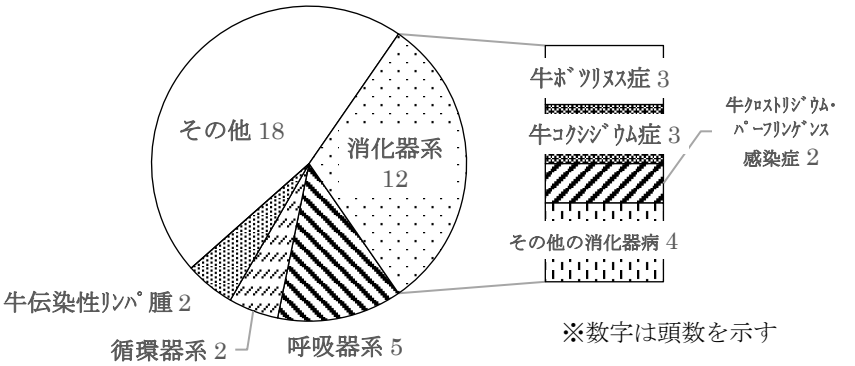
図１．令和5年度上半期 牛の解剖を伴う病性鑑定結果